

|          |              |    |         |    |     |      |
|----------|--------------|----|---------|----|-----|------|
| 授業科目名・形態 | 在宅ケア論Ⅱ       | 講義 | 必修・選択の別 | 必修 | 単位数 | 2    |
| 科目担当者氏名  | 石川 セツ子・芳賀 邦子 |    | 実務経験の有無 | 有  | 開講期 | 2年後期 |

### 【授業の主題】

在宅看護の概念や訪問看護制度について理解した上で、在宅看護における保健・医療・福祉サービスと連携の必要性、ケアマネジメントと実際を学ぶ。また、訪問看護ステーションの機能と役割、課題を理解するとともに、在宅看護における医療処置が必要な療養者と家族への援助について考えを深める。

### 【到達目標】

- 1) 在宅看護の関連する法的知識を得る。
- 2) 在宅看護サービス事業の管理と経営を知る。
- 3) 在宅看護と他機関・他施設における看護の連携方法を理解する。
- 4) さまざまな疾病や障害に特徴的な看護及びケアマネジメントの展開方法を理解する。
- 5) 在宅で遭遇することの多い感染症をもつ療養者の看護について学ぶ。

### 【授業計画・内容】

- 第1回 さまざまな対象者への在宅看護①（芳賀）  
1) 要介護高齢者 2) 認知症
- 第2回 さまざまな対象者への在宅看護②（石川）  
1) 神経難病 2) 疾病や障害を持つ小児 3) 精神疾患
- 第3回 訪問看護ステーションの組織と運営・経営・管理 ①（石川）
- 第4回 訪問看護ステーションの運営・経営・管理の実際（演習）②（石川）
- 第5回 ヘルスアセスメントと看護技術①（在宅医療支援）（芳賀）  
1) 服薬管理 2) 経管栄養 3) 胃瘻 4) 膀胱留置カテーテル
- 第6回 ヘルスアセスメントと看護技術②（石川）  
1) 在宅酸素療法 2) 在宅人工呼吸療法 3) 呼吸リハビリテーション 4) 吸引
- 第7回 ヘルスアセスメントと看護技術③（石川）  
1) 在宅輸液療法 2) 褥瘡
- 第8回 リスクマネジメントと災害時の在宅看護（石川）
- 第9回 訪問看護ステーションにおける看護活動の実際（ゲストスピーカー：豊村）
- 第10回 がん療養者への在宅看護（ゲストスピーカー：高松）  
1) がん看護と疼痛コントロール 2) 看取りの看護
- 第11回 医療処置が必要な療養者と家族への援助・在宅における感染症と感染対策（石川）
- 第12回 在宅ケアマネジメントの実際（石川）
- 第13回 事例①グループワーク（石川）
- 第14回 事例②グループワーク（石川）
- 第15回 諸外国の在宅看護（石川・芳賀）

【授業実施方法】：講義・演習・グループワークなど。

【授業準備】：社会背景と看護ニーズを関連づけて理解するため、厚生労働省「国民基礎調査」「地域包括ケアシステム」等の関連資料、参考書を読み、事前学習をしておいてください。

【主な関連する科目】：在宅ケア論Ⅰ・Ⅱ、在宅ケア実習

【教科書等】：石垣和子・上野まり 編集：在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして、南江堂、改定第2版

【参考文献】：平成30年度版訪問看護業務の手引き。 関連資料等は、必要に応じ授業で紹介する。

【成績評価方法】：①後期定期試験（90%）、②演習、グループワーク等による発言、発表（10%）による総合評価

### 【実務経験及び実務を活かした授業内容】

訪問看護業務運営・管理をはじめ、在宅ケアマネジメント業務、地域における看護大学等の臨地実習を引き受け20年間活動してきた。社会を取り巻く在宅ケアの必要性が理解できるように、これまでの実務経験を活かし、事例等を交えながら学習を進めていきたい。

### 【学生へのメッセージ】

- ① 在宅看護に関連する法律について理解を深めるとともに、在宅療養の意義について考えてみましょう
- ② 訪問看護の特徴を知り、療養者が望む在宅での生活とは何かについて、感じ取っていただきたい。
- ③ 療養の場が違って、予防から看取りまでを含んだ、継続的な看護を様々な対象者へ発揮できるように、在宅看護の学びを深めてもらいたい。
- ④ 社会状況や行政等の動向についても、新聞やマスコミ等の課題に関心を持つことも大事なことです。